

各 位

東京都中央区日本橋 1 丁目 4 番 1 号
日本橋一丁目ビルディング (コレド日本橋)
株式会社 シンプレクス・テクノロジー
代表取締役社長 金子 英樹
(コード番号: 4340 東証 1 部)
アドミニストレーショングループ
問い合わせ先 執行役員 澤田 正憲
T E L 03-3278-6750 (代表)

上場企業初(*1)の「IR 宣言」の公表について

弊社は、「IR 活動を経営の最重要課題のひとつ」として明確に位置づけ、上場企業初の「IR 宣言」として広く公表することといたしました。

「パブリック企業としての説明責任を果たし、常に明瞭な企業メッセージを発信する」ことで投資家・株主の皆さまから信頼される企業を目指します。

シンプレクス・テクノロジー IR 宣言

シンプレクス・テクノロジーはここに IR 宣言をいたします。

- IR 活動を経営の最重要項目のひとつとして位置づけます。
- 東証一部上場のパブリック企業として説明責任を果たし、常に明瞭な企業メッセージを発信いたします。
- 業績動向や事業環境に関わらず、一貫して公正で信頼性の高い情報を開示いたします。
- 企業認知度の向上を目指すとともに、すべての利害関係者に対して公平かつタイムリーな情報開示に努めます。
- 株主・投資家の皆さまとのコミットメントを遵守し、ゆるぎない信頼の構築に努めます。

シンプレクス・テクノロジー IR 活動指針

シンプレクス・テクノロジーは、以下の活動指針に基づいた IR を実施することで、株主・投資家の皆様との長期的な信頼関係を構築し、企業価値の最大化をはかりたいと考えております。

1. 積極的な IR を展開します

常に前向きかつ新しい発想で、株主・投資家の皆さまのニーズに応える IR を展開し、より多くの皆さまにシンプレクス・テクノロジーを知っていただくように努めます。

2. わかりやすい IR を実施します

経営トップの強いリーダーシップのもと、情熱を持って常に明瞭な企業メッセージを発信し、公正かつ公平な情報開示を行うことで、株主・投資家の皆さまの理解促進に努めます。

3. 開かれた IR を推進します

株主・投資家の皆さまの声に真摯に耳を傾け、対話の内容を経営にフィードバックする双方向性の高い IR を展開し、社会の公器たる役割を果たしていきます。

4. 株主満足度を高める IR を目指します

上記 3 つの活動指針を強力に推し進めつつ、長期的な企業価値の向上に邁進し、株主満足度を高める IR を目指します。

シンプレクス・テクノロジー IR 活動指針の実践にあたって

シンプレクス・テクノロジーは IR 活動指針で策定した 4 つの項目を実践するために、以下に取り組むべき課題を明示し、具体的な活動をおこないます。これらはいずれも 2010 年 3 月期下半期から 2011 年 3 月期におけるシンプレクス・テクノロジーの IR 目標となります。(*2)

1. 積極的な IR を展開するために

- 個人投資家向け会社説明会を年 4 回開催します。
- アナリスト・機関投資家向け決算説明会を、本決算と第 2 四半期決算の年 2 回開催します。
- 個人投資家向け会社説明会、アナリスト・機関投資家向け決算説明会については、すべて代表取締役社長の金子英樹が直接説明し、すべての質問に回答します。
- 個人投資家向け会社説明会、アナリスト・機関投資家向け決算説明会で使用した IR 資料や質疑応答の内容については、可能な限りウェブサイトに掲載して広く公開します。
- アナリスト・機関投資家との個別取材については、すべての取材依頼に対応します。個別取材においては、代表取締役社長の金子英樹または IR 担当執行役員の澤田正憲のいずれかが対応します。

2. わかりやすい IR を実施するために

- シンプレクス・テクノロジーの企業価値や事業戦略が明快に伝わる IR ツールの提供を目指し、会社説明会や決算説明会で使用する IR 資料の改革に取り組みます。

- 前回制作から4年が経過したウェブサイトをわかりやすいウェブサイトにリニューアルし、情報発信力を高めます。新しいウェブサイトの公開は2010年夏頃を予定しています。
- ウェブサイトでは、従来の財務情報に加えて、シンプレクス・テクノロジーの「経営理念」「事業戦略」「業界動向」「競争力ならびに優位性」「リスク情報」「コーポレート・ガバナンス」「コンプライアンス」などの定性情報を丁寧かつわかりやすく開示します。
- 情報開示の方針を明文化した「ディスクロージャー・ポリシー」を作成し、ウェブサイトに掲載して広く公開します。

3. 開かれた IR を推進するために

- 株主・投資家の皆さまの声を経営にダイレクトにフィードバックし、企業価値の向上につなげます。
- IR 活動報告を定期的にウェブサイトに掲載して広く公開します。
- 電話やメールでの問い合わせについては、基本的にすべてに対応します。また多く寄せられる質問に関しては、ウェブサイトの FAQ コンテンツに掲載して広く公開します。
- より多くの株主の皆さまにお越しいただけるよう、株主総会を土日に開催します。
- 株主総会にご出席いただくことができない株主の皆さまの利便性向上のため、書面での議決権行使に加えて、インターネットによる議決権行使を継続して実施します。
- 株主総会や株主懇親会では、基本的に寄せられる質問すべてに対し、議長を務める代表取締役社長の金子英樹が回答します。また、すべての質疑応答の内容をウェブサイトに掲載して広く公開します。

4. 株主満足度を高める IR を目指すために

- 長期的な企業価値を向上するために、中期事業計画を策定し、経営の方向性を明示するとともに明確な業績目標を掲げます。
- 現時点においては、第二次中期事業計画を推進しており、最終年度にあたる2012年3月期に売上高150~200億円、営業利益50~60億円の達成を目指しております。なお、売上高、営業利益の下限值については、株主の皆様へのコミットメントとさせていただきます。

<上場企業初(*1)の「IR宣言」を行う背景について>

弊社は2002年のジャスダック上場以来、IR活動を経営の重要項目の一つと位置づけ、IR活動を実施してきました。社長を中心とする積極的なIR活動が、多くの投資家の皆様から高い評価を頂く一方で、その活動が株主・投資家の皆様に対して十分に周知出来ていないと認識しておりました。

IR活動は、(会社の最高意思決定機関の構成員である)株主の皆様に対する説明責任として経営の最重要課題の一つであり、この姿勢を明確に宣言することが東証一部上場のパブリック企業としての責任を果たすために必要であると、弊社では考えています。

また、「IR 宣言」を具体的な活動指針に落とし込み実践的な内容を明示することで株主・投資家の皆様からの進捗状況のチェックが容易な仕組みとし、ガバナンスの実効性を高めています。

弊社では、事業目標のコミットメントの達成を目指すとともに、IR 部門においてもこれらの活動指針をコミットメントとして実践していくことで、投資家・株主の皆様からの信頼度を高め、よりいっそう積極的かつ真剣に IR 活動に取り組んでいく所存です。

「IR 宣言」を明確に宣言・公表し、コミットメントとしている企業は日本国内の上場企業で初めてであり (*1)、非常に基本的ながらも価値のある施策だと考えております。上場企業としての説明責任を果たし、コミットメントを実践していくことで「中長期的な株主満足度を高めることができる」と確信しています。

弊社の今後の積極的な IR 活動にご期待ください。

*1 当社の調べによると、「IR 宣言」の明示は、日本国内の上場企業初の試みであり、非常にユニークな試みであると認識しております。

*2 「IR 活動指針の実践にあたって」につきましては、2010 年 3 月期下半期から 2011 年 3 月期の課題であり、翌年度以降は状況に応じて変化していくことを想定しております。毎年の目標およびその結果報告につきましては、弊社ウェブサイト上で継続して開示していきます。

以上